

中等部第2回

国語

令和7年2月2日実施

50分

2025年度

〔受験上の注意〕

- 一、問題は〔一〕・〔二〕があります。
- 二、解答時間は五十分です。
- 三、解答用紙はこの冊子の最後にあります。
解答は解答用紙の所定のところに書いてください。
- 四、問題用紙・解答用紙に、受験番号・氏名を記入してください。

受験番号	氏名

〔一〕 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、設問の都合上、本文には表記を変えたり省略したりした部分があります。

中学一年生の私（小林 葵）、咲子、ラマワティはクラスメイトであり、食べることに対してそれぞれ悩みを持っている。ある日、同じクラスのコッペ（久野 浩平）の母親が緊急搬送されたことを知り、四人は学校を抜け出して病院へ向かったが、大雨の中、迷子になってしまう。

知らない土地で迷子になっていた私たちは、地域の人に救助された。大雨でがけ崩れの恐れがあるとかで、遅れた人がいないか、見回ってくれていたのだ。

公民館には、山沿いの家を中心に、避難した人たちが集まっていた。

私たち四人は、タオルを貸してもらい、びしょ濡れになった髪を拭く。濡れた制服が肌に張りついて、気持ち悪い。

「小林、大丈夫か。顔色悪いぞ」

「大丈夫」

コッペくんに心配かけたくなくてそう答えるけど、十月とはいえ、全身雨に濡れたせいで、ずいぶん冷えていたみたいだ。手先が氷みたいに冷たい。

「葵、こっちにおいで。毛布貸してくれるって」

「ありがとう、ラマワティちゃん」

① はあ、私ってほんと、お荷物だなあ。

その間、咲子ちゃんは、大人の人にテキパキ事情を説明してくれた。ちょっとお説教もされたけど、咲子ちゃんは「はい、ご迷惑かけてすみません」って、素直に謝っていた。こういうときの潔さは、咲子ちゃんの美点だと思う。

「じゃあ、学校にはこちらから連絡しておくから、君たちはここにいてね」

「ありがとうございます」

大規模に停電しているようで、まだ電気はつかないから、公民館も暗い。スマホも使い物にならないみたいだ。避難してきた人たちは、懐中電灯の明かりの中、不安そうに身を寄せ合っていた。

私は毛布をかぶって、ぎゅっと、身体を縮める。

学校みんなは、もう家に帰ったのかな。

先生たち、私たちのこと、心配してるだろうな。

お母さんも……。

いつも泰然としてるラマワティちゃんも、さすがに不安そうだ。

その横で、コッペくんはせわしなく貧乏ゆすりしている。

お母さんと妹のこと、心配なんだろうな。

そう思うと、私までしんどくなってくる。胸がぎゅうっと締めつけられるような。

「葵、ちよつと落ち着きな。大丈夫だよ」

咲子ちゃんは、そう言うけど。

「で、でも……」

だって、病院も停電してたらどうしよう。ガスや水道まで止まったりしたら……悪い想像がどんどん膨らんでいく。

「停電、長いですね」

「被害が大きくならないといいけど……」

他の人たちも、ひそひそと声を交わす。不安は波のように広がり、私たちを飲みこんでいく。情報をシャットダウンしようと目を閉じるけど、神経が高ぶり、A 余計なことを考えちゃって、結局落ち着かない……。そんなとき。

あるおばあさんが、X を上げた。

「あれこれ気にしても仕方ない。今日のうちは帰れそうにもないし、炊き出しでもしましょうかね」
え、炊き出し？

「いいですね」

「そうしましょう！」

おばあさんの一言を合図に、大人たちが次々立ち上がった。

「たしか、カセットコンロがありましたよね？」

「災害用の非常食が、倉庫に常備してあるはず……」

「週末の運動会用にお菓子を注文してたでしょう。あれも食べていいよ」

「ああ、ありましたねえ！」

さつきまで、どよーんと暗い雰囲気だったのに。

なぜだか、みんなが生き生きし始めた。

私は咲子ちゃんを見た。咲子ちゃんも、驚いた顔をしている。

大人たちが次々に部屋を出ていく。

「あ、あの！ 手伝います！」

気づけばそう口にしていた。他のみんなもうなずき、立ち上がる。

「そう？ じゃあ、その折り畳み机を組み立ててくれる？」

「はいっ！」

「そっちの男の子は、おじさんたちと物資を運ぶのを手伝ってちょうだい」

「了解っす！」

発起人のおばあさんは、カセットコンロの上に大きな鍋をのせ、お湯を沸かし始めた。

「ひとまず、お湯さえあればね」

隣で私が「Y」をかけたのがわかったのか、おばあさんはにつこり笑い、言った。

「お湯さえあれば、できることが広がるでしょ。食材を温めたり、麺をゆでたり。お茶やスープを飲めば身体が温まるし、それだけでほっとする」

「へえ……」

そこに、大人の男の人たちとコッペくんが帰ってきた。

「備蓄の食材持ってきました」

「ありがとう。そうねえ……」

おばあさんは、段ボールの中から、お米と、お味噌と、乾燥わかめを取り出す。

「ちょっと時間はかかるけど、そっちのお鍋でお米を炊きましょう。その間にお味噌汁を作っちゃうわね」

そして、手際よく指示を出しはじめた。

私たちは、食材の仕分けを手伝う。

やがて、お鍋から、お味噌汁の匂いがしはじめた。

「いい匂い……」

お味噌汁なんて、別に珍しくもない、嗅ぎなれた匂いのはずなのに。

なんでこんなに、ほっとするんだろう。

「ごめんね、ご飯がまだ炊けなくて。それに、お椀がないから、紙コップで勘弁してちょうだいね」

おばあさんはそう言いながら、お玉で次々にお味噌汁をよそっていく。

私たちはバケツリレーのように、紙コップに入ったお味噌汁を配った。

電気はまだ復活しないし、窓の外では、風がびようびよう音を立てている。

でも、公民館に集まったみんなは、温かいお味噌汁を飲んで、にこにこ笑みを浮かべている。それだけで、「大丈夫」って気がしてきた。

②「同じ釜の飯を食う、なんてよく言うけど。みんなで同じものを食べると、一緒に頑張ろうって気持ちになるものよね」

「……そうですね」

私はつぶやき、お味噌汁を一口飲んだ。
人は、生きるために食べる。
生命維持のため。死なないために。
でも、それだけじゃない。

困難な状況にあつて、それでもなんとか踏ん張るために、まずは、ものを食べる。みんなで力を合わせるために、分け合つて食べる。

それはたぶん、味とか栄養とかを超えた、何か特別な価値を持つ、営み。

しばらく後。先生たちと私たちの保護者が公民館に現れた。

※ヒジャブをつけてるのはラマワティちゃんのお母さんだな。

眼鏡をかけたおじさんは、コッペのお父さん？ あ、修平くんもいる。

それに、赤いワンピースを着た、ものすごい美女。今にも泣きそうな顔をしている。きっと、咲子ちゃんのママだ。

そして……、私のお母さんと、お父さん。

公民館からの電話を受けて、悪路の中、マイクロバスで駆けつけてくれたらしい。

「あなたたちねえっ！ どれほど心配したかわかつてるのっ！」

八の字眉を、今日ばかりは吊り上げて、ほとんど怒鳴りこむようにして B やってきた朝野先生。私たちは揃ってキュッと縮こまる。

だけど、そんな朝野先生をさっと止めたのは、

「まあまあ」

いつものように、スンと取り澄ました顔の、橘川先生だった。

「いろいろ言いたいことはあるでしょうが、いったんお説教はナシで」

いつもと変わらない白衣に黒シャツの橘川先生は、まるで何事もなかったかのような冷静さで、淡々と、

「今は無事だったことを祝って、ひとまずみんなで一緒に、何か食べましょう」

「えっ……？」

橘川先生はそこで、バッグから大きなツツみを取り出した。

そして、机の上に広げてみせる。

「わ、おむすび……！」

大きなタッパ―四つ分の、大量のおむすび。

どれもきっちり同じサイズで、きれいにのりが巻かれ、整然と並べられている。

私たちだけじゃなく、公民館に集まったみんなが、釘づけになった。

「保護者の皆さんが集まるまでの間、給食室で仕込んでいました」

橘川先生は背中の後ろで手を組み、言った。

「お腹が空いたでしょう。みなさんでどうぞ」

「わあ、嬉しい！」

「橘川先生、サイコー！」

ラマワティちゃんとコッペくんの歓声^{かんせい}を皮切りに、次々と手が伸びた。
地域の人たちも、嬉しそうだ。

「ありがとうございます。鍋でお米を炊こうとしたんだけど、うまくいなくて」
「カセットコンロでお米を炊くのは意外と難しいんですよ。火力が足りないので」

橘川先生は無表情で説明しつつ、おむすびを配る。

子どもも大人も、みんな嬉しそうに食べ始めた。

だけど、私[※]と咲子ちゃんは……。

手が伸ばせない。まだ。怖^{こわ}くて。

お腹は空いている。おむすびは嬉しい。

でも、だからこそ、こんなところで失敗したくない。

すると、橘川先生が、こつちを見た。

私たち二人に向かって、微笑^{ほほえ}みかける。

そして、静かに、だけどはつきりと、言った。

「たかが食事です」

それは祈^{いの}りか、あるいは、嘆願^{※たんがん}のように。

咲子ちゃんは真面目な顔でうなずいて、おむすびを手に取り、かぶりついた。そのまま二口、三口と食べる。橘川

先生は、それをじっと見守っている。

私も、Cと、おむすびを一つ手に取る。

(b)

シンコキユウするけど……でも、ダメだ。やっぱり食べられない。

私はなるべくみんなから遠くに離^{はな}れて、壁^{かべ}の方を向いて座^{すわ}った。

「……」

食べなくなるまで、じっとおむすびを見つめていると。

「葵」

お母さんが、私の隣に座った。それに、お父さんも。

お母さんが、おむすびを手に、尋^{たず}ねる。

「ここで食べたいの？」

「うん」

「お母さんたちもここで食べていい？」

「……うん」

私はうなずき、二人の方を向いた。

三人で向かい合い、おむすびを見つめる。

「……三人でご飯食べるの、久しぶりだね」[※]

と、お父さんがつぶやいた。

「そうね」

と、お母さんも言った。

私は、なんて返していいかわからなくて、ただものすごく緊張しながら、おむすびを一口、かじった。

口の中で、米粒がほどける。ほのかな塩味と、お米の甘い味。

それは本当にふつうの、なんの変哲もない、ただの塩むすびだったけど。

「美味しい……」

私はそのとき、たぶん生まれて初めて、心の底から、美味しいって思った。

そして、唐突に、悟る。

美味しいっていうのは、きつと。

生きたいってことなんだ。

だって、「美味しい味」なんてものは存在しない。

しょっぱい味、甘い味、苦い味、すっぱい味……それぞれの味がわかることと、それを美味しいと思うことは、まったく別の回路だし。

たぶん、美味しいって思うのは。

その食べ物が、自分や大切な人の命になるのが、嬉しいから。

③ 明日も生きていきたいっていう、希望。

「美味しい」

私はもう一度つぶやいて、またおむすびをかじる。

自然と、笑顔になった。

④ そんな私を見て……お母さんは、ぎゅつと唇を噛んだ。肩が震えているような気がした。

え、泣いてる？

お父さんがお母さんの肩を抱いた。それを見て、私は、覚悟を決めた。

居住まいを正し、二人の顔をしっかりと見て。

「……あのね」

「うん」

「私、たぶん会食恐怖症なの」

お母さんとお父さんは、何それ？ って顔はしなかった。驚いたふうもなく、私の視線をまっすぐ受け止めている。

もしかしたら二人とも、気づいていたのかもしれない。

私は唾を飲み、続けた。

「そばに人がいると食べにくくなる。食べたいけど、食べられないの。周りの人に見られてるような気がして、食欲なくなつて。だから私、お母さんのご飯が嫌いなわけじゃなくて……」

「葵」

お母さんがそこで、遮った。

「わかった」

わかってないって、つぶばねようと思えば、できた。

わかるわけないでしょ、何言ってるの、勝手にわかんないでよって。

だいたい、お母さんにわかってもらったところで、私のこれは治らないんだよって。

でも、そのとき私は。
わかってないとしても、治らないとしても。
ただ、きちんと言えたことで。困ってるってことを、伝えられたことで。
少しだけ、ほんの少しだけ、楽になるような、そうでもないような、なんだかごちゃごちゃの気持ちで、うなずいた。

「うん」

私の会食恐怖症は、治ったわけではない。

問題が解決したわけではない。

でも、それでいいと思った。

今はそれで。

私は、喉をさする。

たぶん、ずっと喉につつかえていた「何か」は、「私自身」だから。

飲みこむことも吐き出すこともできないなら、無理に追いつき出そうとしないで、認める。

そこにいいよって、言っておける。

私、今はそれしかできないけど。

むしろそれだけが、前に進むための、たった一つの道のような気がする。

(天川栄人『わたしは食べるのが下手』小峰書店)

※泰然と……落ち着いていて物事に動じない様子で。
※ヒジャブ……女性のイスラム教徒が頭や身体をおおうために身に着ける衣類。
※朝野先生……四人の担任の先生。
※橋川先生……栄養教諭の先生。葵たち三人の食することに對する悩みを知っている。
※私と咲子ちゃん……二人は人前で食事をとることに苦手意識を持っている。
※嘆願……ここでは、熱心にたのむこと。
※三人でご飯食べるの、久しぶりだね……葵とお母さんとの仲が悪くなってから、一緒に食事をする機会が減っていた。

問一 線部 (a) (b) のカタカナを、それぞれ漢字に直しなさい。

問二 A ～ C に入れるのに適切な語を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア おずおず イ パラパラ ウ ぐるぐる エ ズカズカ オ しげしげ

問三 X、Y に入る体の部位を表す言葉として適切なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア 耳 イ 口 ウ 首 エ 腰 オ 腕

問四 線部①「はあ、私ってほんと、お荷物だなあ。」とありますが、このときの「私」の心情を説明しなさい。

問五 ——— 線部②「同じ釜の飯を食う」とありますが、この慣用句の意味としてもっとも適切なものを次の中から

選び、記号で答えなさい。

- ア 協力して食事を作り、それを分け合うこと。
- イ 苦しみを共有することで生涯の友となること。
- ウ 共に食卓をかこみ、和気あいあいと過ごすこと。
- エ 同じ機種の炊飯器で炊いたご飯を食べること。
- オ 一緒に生活することで親しい仲間になること。

問六 ——— 線部③「美味しい」とありますが、このときの「私」の心情や様子の説明としてもっとも適切なものを

次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 大雨にあい、避難先の公民館で途方に暮れていたが、橘川先生のおむすびを食べて初めて「美味しい」と感じたことで危険から逃れられた実感が湧き、安心してゐる。
- イ 今まで人前で食べることに強い抵抗があったが、知らない人がいる場所で食事をし、さらに「美味しい」と思えたことで自分の悩みを解消できたと感じ、喜んでゐる。
- ウ 食事に苦手意識を持っていたため、これまで両親や友だち、先生に心配をかけてきたが、非日常の経験をする中で自分を見つめなおし、周りの人たちに感謝の気持ちを抱いている。
- エ 食べたのはなんの変哲もないおむすびだったが、今まで探し求めていた食べるこの意味をようやく理解することができ、今の感情を忘れないように、もう一度確認している。

オ 不安な状況の中、家族と一緒におむすびを食べたことで「美味しい」と感じるこの素晴らしさが分かったような気がして、生きていくことへの希望を噛みしめている。

問七 ——— 線部④「そんな私を見て……お母さんは、ぎゅっと唇を噛んだ。肩が震えているような気がし

た。」とありますが、このときのお母さんの心情を表したものとしてもっとも近いと考えられる語を次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 心配
- イ 感動
- ウ 満足
- エ 失望
- オ 感謝

問八 ——— 線部⑤「前に進むための、たった一つの道のような気がする。」とありますが、ここで「私」はどのよ

うに思えるようになったのですか。解答欄に合うように、五十字以内で説明しなさい。

問九 この文章の表現についての説明としてもっとも適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 「氷みたいに」「バケツリレーのように」といった比喩表現がちりばめられることによって物語全体がユーモラスな雰囲気になり、明るく親しみやすい作品になっている。

イ 「私」が家族に自分の思いを打ち明ける場面などで句読点が多用されており、思い悩みながらも自身と向き合おうとしている「私」の様子が描かれている。

ウ 様々な登場人物の視点から物語が描かれており、すべての人物の心情が複雑に示されることで、主人公たちが置かれている危機的な状況に緊迫感を与えている。

エ 避難所でのにぎやかな情景が描写されていることによって、「私」がこれから会食恐怖症を克服し、家族との関係性もだんだんと良くなっていくことを読者に暗示している。

オ 始めから終わりまで会話を中心として物語が進められており、「私」とその他の登場人物とのやり取りがテンポよく展開されているため、臨場感あふれる作品になっている。

〔二〕 次の文章は、「具体」と「抽象」という、もののとらえ方をテーマとして書かれたものです。よく読んで、

後の問いに答えなさい。なお、設問の都合上、本文には表記を変えたり省略したりした部分があります。

みなさんは人生の中で、試験を受けることが遅かれ早かれあると思います。最も身近で直近のものは大学や高校、あるいは中学などの入学試験ということになるでしょう。他にも国家資格が必要なシヨクギョウにはイシ国家試験や司法試験等の試験があったり、語学のような能力を証明したりする際にも多くの形で試験を受けることが必要となります。

誰もが試験前にする対策が「過去問」を解いたり研究したりすることでしょう。とくに前年度（前回）の過去問をまったく見もせずに本番の試験を受ける人は、ごく少数派といってよいでしょう。

つまりこれは、試験に合格する上での必須項目というわけです。

A よく考えると、これは不思議な現象です。たとえば入試問題は基本的にそうだと思いますが、昨年出題された問題がそのまま出る確率は限りなくゼロに近いといってもよいでしょう。ということは、直前回の過去問というのとはある意味で数ある問題集に掲載された問題の中でも「世界一出題される可能性が低い」問題なわけです。

それでも準備対策として、誰もが取り組むのはなぜでしょうか。

みなさんが過去問を解いたときに確認するであろうことを、リストアップしてみてください。

まず明らかに違うのは、「問題そのもの」や「答えそのもの」です。それでは過去問からは何がわかるのか？

一つ目は「傾向と対策」でいうところの「傾向」です。その「傾向」はいったい何を指しているのかをあらためて

考えてみましょう。

B

、以下のようなことではないでしょうか。

- ・ 特定の範囲からの出題が多い、少ないといった「出題範囲」
- ・ マークシート形式か記述式か、記述式なら何文字程度か、作文する上での自由度や制限事項といった「解答形式」

- ・ 時間に対しての出題数や文章の分量等の「量」
- ・ 易しい↓難しい、逆に難しい↓易しい、あるいは順番と難易度が無関係であるといった「順番」や「構成」
- ・ 数回分を見た場合、過去から現在にいたる出題の傾向の時間的変化（だんだん難しくなっている、あるいは回によって難度のばらつきの有無）……

過去問からわかる「傾向」は、個々の問題の話ではなく、それらをまとめた場合の全体のバランスや関係性ということになるでしょう。

これはまさに、この本でいっている「抽象」ということになります（次ページ図参照）。

別の表現をすれば、試験対策をするというのは、具体のレベル（個々の問題ができるようになること）と抽象レベル（それらを実際に限られた時間や制約の中で、どのように優先順位をつけて時間配分をうまくするか）の2つのレベルの話だったのです。

そう考えると、試験でいい結果を出せる「要領のよい」人の特徴というのが浮かび上がってきます。それは、の

ちほどの別テーマとしましょう。

ここまで「過去問を研究することの意味」を理解してきたみなさんは、「過去問」を「過去の歴史」と置き換えてもまったく同じであることに気づいたでしょうか（つねに「ここから学べることが他にもないか？」と考えることそのものも「具体と抽象」の応用です）。

「歴史なんて勉強して何の意味があるのかわからない。過去や昔話じゃないか」という人がいますが、これは本当でしょうか。

ここまで読んできたみなさんであれば、これは「絶対に出ない去年の過去問をやることに何の意味があるのか」という疑問と一緒であることがわかるでしょう。③いってみれば、歴史は私たち「人類の過去問」ともいえるのです。

歴史を学ぶ意味は、それを抽象のレベルで流れや関係性を見ることがにより教訓を導き、現在や未来に应用することにあります（過去問を抽象レベルで見ることと一緒にです）。

「源頼朝という鎌倉幕府の征夷大将軍が1199年1月に亡くなった」という過去の金輪際この世で起きることはないのです。

ただ、ii レベルで「権力者のとつぜんの死によって周囲の権力争いがどのように展開するか」というその

後の出来事との関係性でとらえれば、いまの政治の世界にだって会社の経営にだって応用することは十分に可能です。学校の圧倒的リーダーがとつぜん転校してしまったら、その後の友だちグループの関係がどう変化するか、にだって応用可能かもしれません。

こう考えれば、歴史の出来事を iii 的なレベルで「〇〇年に××が□□した」と暗記するだけなのは、過去

問の勉強でいえば、「2019年の過去問の間2・3の正解は3番だった」という答えを暗記しているようなものです。これだけでは、ほとんどその後の人生に役に立つことはありません。これは「具体と抽象」にあてはめれば、歴史の勉強を iv レベルでのみしているからです。

それでは、抽象レベルで歴史を学ぶとはどういうことでしょうか。

それを「具体と抽象」の関係から考えてみましょう。

歴史上の出来事を具体的に学ぶのと抽象的に学ぶことの違いを、[※]イメージ図（上）と^④比較図（下）に示します。違いを一つずつ見ていきましょう。すべて「具体と抽象」の応用ですから、それぞれの特徴を活かしたものとなっているはずです。

まず「具体は一つ一つバラバラで抽象はそれをまとめたものである」という違いを歴史の勉強にあてはめれば、過去の出来事を個別の「点」としてとらえるのが具体の視点です。また、それらを複数つなげて「線」としてとらえたり、複数の線をつなげて、時間軸と空間軸（地域の広がり）を組み合わせて「面」ととらえたりするのが抽象レベルでの考察ということになります。

見ている範囲も、狭い^{せま}ミクロの範囲でとらえるのが具体レベルで、広い^{ひろ}マクロのレベルでとらえるのが抽象レベルということになります。

具体レベルで歴史をとらえると具体的な人名や地名、各出来事の年代を暗記することに力が注がれるのに対して、抽象レベルではそれらの流れやつながりをとらえることになります。

歴史の勉強を「人名・地名と年代の暗記」で終わらせることほどでもないことはありません。それは単なるスタートであって、むしろそこから勝負なのです。ここまで来て初めて、歴史の勉強が「単なる過去の話」から「現在や将来に活かす学び」へと変化するのです。

暗記で終わらせるのは、料理でたとえるのなら、食材を調達するのに疲れきって料理をやめてしまい、食材をすべて腐^{くさ}らせてしまうようなものです。

C 実際にはどのような場面で、歴史上の出来事を抽象化して学ぶことができるのでしょうか。

社会に出て仕事や日常生活での課題に取り組んでいくと、具体レベルではバラバラに見える問題も抽象化すると、根本的にはいくつかの基本的問題の組み合わせでできていることがわかります。

たとえば、

- ・新しいものを取り入れて変化を優先させるのか、昔からの伝統を守って変化しないことを選ぶのか
- ・自分のグループだけの閉じた世界で解決すべきか、他のグループも含めて開いた世界で解決すべきか。国家でいえば移民を受け入れるべきか。会社でいえば新しい技術や製品を自社だけで開発すべきか、他社と共同で開発すべきか
- ・理想を重視すべきか現実を重視すべきか（仕事を選ぶときや国防を考えるとときなど）

・グループの活動方針を決めるときに、一部の人（優秀で他者をリードできる人など）を中心に設計するのか、一人も取り残さないように設計するのか

といったことで、問題の要素を抽象化していけば、歴史上の出来事で学ぶべきことは山のように出てきます。

「D」という意見もあるでしょうが、これも対象を具体的に与えられるのか抽象的に与えられるのかの違いです。

たしかに昔は服装も違えば、スマホも飛行機もなかったかもしれませんが。ただしそれは具体的なレベルの話で、抽象度を上げて考えれば「構図は一緒」と考えることも可能でしょう。

なぜそのようなのかといえ、人間の基本的な特性、死にたくないとか、家族を守りたいとか、より快適に暮らしたいという欲求は百年や千年のレベルではそう簡単に変わるものではないからです。

歴史から学べるかは、いかにこのような2通りの学び方を活用できるかにかかっています。

もちろん「2通りの学び方」は、完全に一つ一つが独立してバラバラなものではなく、料理と食材の関係のように両者がミックスにつながったものではありません。

ただ、学校での歴史の勉強や受験勉強に限っていえば暗記量の多さ（という具体レベルの勉強）に圧倒されて、抽象レベルの学びにつなげられないまま社会人になってしまいう人も多いようです。多くの人にとって「歴史の勉強」＝暗記のイメージが大きいのもそれを象徴しています。

せっかく「暗記の嵐」という形で「大量の食材」を手に入れたみなさんは、それを冷蔵庫で腐らせるのではなく、うまく料理する（抽象化してから具体化するという考える世界にもち込む）ことでおいしい料理をお腹いっぱい

食べられるように工夫してみてください。

（細谷功『13歳から鍛える具体と抽象』東洋経済新報社）

※次ページ図参照……ここでは省略する。

※イメージ図（上）……ここでは省略する。

※ミクロ……ここでは、小さく細かな視点。

※マクロ……ここでは、全体的な、広範囲にわたる視点。

問一 線部（a）（c）のカタカナを、それぞれ漢字に直しなさい。

問二 A Cに入れるのに適切な語を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア さらに イ たとえば ウ ところが エ では オ なぜなら

問三 線部「具体のレベル」「抽象レベル」とありますが、本文中の i ivには「具体」、「抽象」のどちらを入れるのが適切ですか。「具体」は1、「抽象」は2で、それぞれ答えなさい。

問四 線部①「不思議な現象」とありますが、そのように言えるのはなぜですか。五十五字以内で説明しなさい。

問五 線部②「傾向」とありますが、ここでの「傾向」がどのようなものであるかを端的に説明した一文を本文中から探し、初めの五字で答えなさい。

問六 ――線部③「歴史は私たち『人類の過去問』ともいえる」とありますが、どのようなことですか。もつとも

適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 歴史は、それを学ぶことによって人類がたどってきた道すじを知ることができ、昔ながらの文化を未来につなげていくきっかけとなるものであるということ。

イ 歴史は、具体と抽象の両面から学ぶことで昔のことを知るだけでなく、さまざまな試験の対策にもなるという点で、優れた学問であるといえるということ。

ウ 歴史は、それを抽象レベルで見ることによって教訓を導き、現在や未来に応用することができるという点で、試験における過去問のような価値を持つということ。

エ 歴史は、過去問を解けば解くほど過去についての具体的な知識を蓄積することができるという点で、われわれ人類がまず学ぶべき優れた学問であるということ。

オ 歴史は、既に過ぎ去った時代のことだけを学ぶものであり、現代に生きるわれわれ人類にとっては古い臭い過去の問題となってしまうということ。

問七 ――線部④「比較図」は以下に示されるもので、「歴史を見る」ということに関する本文の内容を、X「具

体」、Y「抽象」それぞれのレベルに分類したものです。後のア～エは、次の図のどちらのグループに入れるのが適切ですか。XまたはYでそれぞれ答えなさい。

X 具体レベルで歴史を見る	Y 抽象レベルで歴史を見る
・ミクロでとらえる ・固有名詞や年代を覚える ・個別の出来事を見る ・出来事を暗記する	・マクロでとらえる ・ざっくりと流れを見る ・時代の前後関係でとらえる ・なぜそれが起こったかを考える

ア 出来事を「線」「面」でとらえる

イ 出来事を「点」でとらえる

ウ 過去の出来事として学ぶ

エ 現在や今後はどう活かせるか考える

問八

Dに入れるのにもっとも適切な文を次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 歴史は過去の出来事だから、本当に正しい情報かどうかからない
- イ 歴史は抽象化して考えるよりも、暗記することのほうが大切だ
- ウ 過去のことから学ぶよりも、現在や未来について考えたほうがよい
- エ 昔と今では状況じょうきようが違ちがうから、そう簡単に昔のことは参考にならない
- オ 今起きている問題に関しては、当事者である自分たちで解決すべきだ

問九

本文では「抽象」（応用）の大切さが述べられています。技術の発達した現代では、様々な情報を簡単に手に入れることができるようになりました。そのような時代における「暗記」の必要性について、あなたはどのように考えますか。以下の条件をふまえて書きなさい。

- ① 一段落目に、あなたの考えを書くこと。
- ② 二段落目に、その根拠こんきよとなる具体例や自分の体験を書くこと。
- ③ 三段落目に、一段落目と二段落目をふまえた自分の考えのまとめを書くこと。


$$[\rightarrow]$$

問九	問八			問五	問四	問三	問二	問一	
						X	A	(a)	
								み	
				問六			Y	B	(b)
						問七		C	
50									
と思えるようになった。									
		40	20						

↓ここ

50

40	20
----	----

(第二回)



↓ここにシールをはってください↓



